

## 「労働時間相談ダイヤル」に寄せられた相談事例

### (長時間労働に関するもの)

#### 事例1：労働者からの相談（業種：製造業）

景気悪化の影響による仕事量の減少のため、2009年1月に人員削減が行われた。その後、6月から仕事量が増加したが、人数が少ないため残っている労働者にしわ寄せがきて、1人当たりの仕事量が景気悪化以前の約2倍、残業が1か月100時間を超える長時間労働となっている。このため体調を崩し、周りの労働者もやつれている。

#### 事例2：労働者の家族からの相談（業種：建設業）

夫が現場監督の仕事をしている。工事現場を1人で任され、現場監督の仕事を終えた後には、工事現場の近くに借りたアパートで事務処理までしている。現場監督と事務処理の仕事で、1か月100時間を超える残業をしており、夫の健康状態が心配である。

### (賃金不払残業に関するもの)

#### 事例3：労働者からの相談（業種：卸・小売業）

営業の仕事をしている。毎日、労働時間は9時～18時として書類を提出しているが、実際は19時くらいに外回りから帰社し、23時頃まで事務所で残業をしている。1か月に100時間くらいの残業をしているが、残業手当が支払われない。

#### 事例4：労働者からの相談（業種：社会福祉施設）

事務職をしている。通常は月60時間程度、決算期になると月100時間程度残業をしている。残業時には申請書を提出するが、職場の雰囲気から月15時間くらいしか申請できない。会社の労働組合に相談したところ、「仕事があるだけよいでしょう」と言われて取り合ってもらえない。

### (「管理職」になったことを理由とする賃金不払残業に関するもの)

#### 事例5：労働者からの相談（業種：卸・小売業）

自動車のディーラーで働いている。課長補佐になる前には月10万円を超える残業手当が支払われていたが、2、3年前に課長補佐になり、月3万円の管理職手当が支払われるものの、残業手当が支払われなくなった。権限や仕事の内容は変わっておらず、部下もいない。

### (長時間労働・賃金不払残業に関するもの)

#### 事例6：労働者の家族からの相談（業種：製造業）

夫が印刷業に勤務している。1か月100時間を超える残業をしているが、残業代が全く出ない。また、有給休暇も、以前同僚が取得した時に欠勤扱いとされたことから、取得できない状況である。夫は、今は他の仕事がないのでここでがんばるしかないと言っているが、体調が心配である。